

VOICE 救助隊の活動

大阪労山救助隊 西村博通

みなさんは山で遭難したことがありますか？

もし、自分が同行者が遭難したら...考えたことはありますか？

昨年度は非常に遭難の多い年でした。なかでも道迷いが多発していましたが、スマホなど便利な道具が普及した今、しっかりと地図読みができる登山者は少なくなっているのではないのでしょうか。

万一の事態に備えてココヘリを携帯されていますか？

体力には自信がある、こんなところで迷わない、自分は大丈夫だろう...そういった過信は時に命取りになるかもしれません。

低山、雪山、クライミング...登山の内容に関わらず、山では日常生活にはない様々なリスクがともないます。

当たり前のことですが、そう簡単に山で救助はできません。何かあった場合、まずは自分たちで対応する必要があります。

4月には会員の皆さまに向けた近畿ブロック搬出講習会を予定しています。

ハイキングレスキュー、岩搬出など、幅広い内容で皆さまと一緒に学んでいきたいと考えています。

今の時代において、救助隊は救出活動のために出動することが主な役割ではなく、遭難を予防する知識、山でのトラブルに対処する技術を普及する役割に変わってきています。

今一度、遭難のリスクを自分ごととして考えてみましょう。

大阪労山救助隊では定期的に応急手当などのコンパニオンレスキュー、ギアを用いたチームレスキュー訓練を行っています。

いま救助隊では安全意識に対して高い志を持った仲間が増えつつあります。

こんな時、どうすればいいのか？疑問、ご要望があれば救助隊に投げかけてみてください。

そして、大阪労山救助隊の活動に是非ご参加ください。